

緑内障には釣藤散 クラクラ感を軽減

Q 六十歳、女性。四十八歳ごろから目の疲れや

目の奥がひどく痛むなどの症状が現れ、眼科で緑内障との診断を受けました。定期的に視野・視力・眼圧を測っています。ここ数年眼圧は正常ですが、視力低下や視野の狭窄（きょうさく）があり、心配です。漢方によい薬はありますか。その場合西洋薬と併用してもよいでしょうか。

A 漢方では緑内障で問題になる眼圧そのものへの働きかけより、随伴症状の軽減を目的に処方する。

今日、最もよく使われる処方では釣藤散（ちようとうさん）である。構成生薬の釣藤鈎（ちようとうこう）はクラクラする感じやまぶしい感じを治す。また薬用人参や菊花（きつか）には

目に栄養を与え目の曇りを去る働きがある。

目の血行を改善し、めまい感をとる四物湯（しもつとう）を基礎にした処方、ゆれる感じやふらつきを治す作用のある苓桂朮甘湯（りょうけいじゆつかんとう）を基礎にした処方もよく用いられる。加齢に伴う諸症状には滋腎明目湯（じじんめいもくとう）や八味地黄丸（はちみじおうがん）がよい。目の痛みが強い場合は選奇湯（せんきとう）、清上蠲痛湯（せいじょうけんとう）なども選択される。

以上、緑内障の随伴症状の軽減に有用な漢方処方はいくつかある。また緑内障に常用される漢方薬は強いベータ遮断剤のような強力な作用はないので、緑内障に常用される西洋薬との併用禁忌はない。